

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2017年3月）

発表日：2017年5月10日（水）

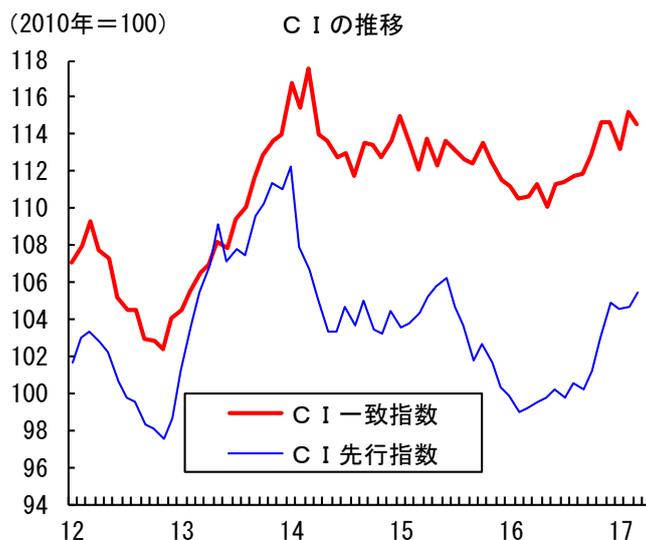
～C I一致指数は前月差低下も、均してみれば改善基調持続～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

内閣府から公表された2017年3月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差▲0.6ポイントとなった。中華圏の春節のタイミングの影響で、1月のC Iは前月差▲1.4ポイントと下振れ、2月は前月差+2.0ポイントと上振れしていた。3月は、この2月の上振れ分の反動が出たことが前月比での低下につながった。均してみれば、C I一致指数は上昇傾向にあると評価してよいだろう。3月の内訳では、小売業販売額や卸売業販売額、有効求人倍率などがプラス寄与となる一方、鉱工業生産指数や生産財出荷指数、耐久消費財出荷指数、投資財出荷指数などの生産・出荷関連系列の押し下げが目立ち、全体ではマイナスになった。

また、3月のC I先行指数は前月差+0.8ポイントとなった。先行C Iは16年2月を底とした持ち直し傾向続いていると評価できる。先行C Iが改善していることは、先行きの景気を占う上での好材料だ。なお、3月の内訳では、最終需要財在庫率指数がマイナス寄与の一方、消費者態度指数や新設住宅着工床面積、日経商品指数などの押し上げが大きかった。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、6ヶ月連続で「改善」となった。3ヶ月移動平均前月差の値は横ばいと、これまでのプラス基調がいったん途切れる形になってしまったが、基調判断下方修正の基準は満たしていない（「足踏み」判断への下方修正基準は、「3か月後方移動平均前月差の符号がマイナスに変化し、マイナス幅（1か月、2か月 または3か月の累積）が1標準偏差分以上」）。また、先日公表された4月の生産予測指数が前月比+8.9%と異様に強いことを踏まえると、4月のC I一致指数は明確な上昇になる可能性が高く、3ヶ月移動平均前月差の値も再びプラスに戻るだろう。基調判断はしばらく「改善」が継続する可能性が高い。



(出所)内閣府「景気動向指数」